

プロジェクトマネジメント学会四国支部報告

板倉 宏昭*

Activity Report of Shikoku Branch of The Society of Project Management Hiroaki Itakura

1. 四国支部年次研究大会の報告

プロジェクトマネジメント学会四国支部では、2月10日(火)、香川大学幸町キャンパスにおいて、四国支部総会に引き続き、第7回年次研究大会を開催いたしました。

四国支部年次研究大会

日時：2月10日(火)

場所：香川大学幸町北キャンパス研究交流棟
研究交流スペース

共催：香川大学大学院地域マネジメント研究科
香川大学工学部
香川大学社会連携・知的財産センター
技術交流協力会

後援：香川県、四国経済産業局、特定非営利活動
法人ITコーディネーター協会



年次研究大会の様子

年次研究大会には、本部からも大会委員会副委

員長の岡田様をご講演くださいました。

四国支部の会員・一般の方には、48名と大勢の方に参加していただきました。

年次研究大会は、小山支部長の挨拶に続き、岡田様による招待講演、四国支部会員による7件の発表がありました。講演・発表後の質疑応答では活発な意見交換が行われ、充実したものとなりました。



小山支部長の挨拶

招待講演：

「ITシステム開発の近況とモダンPM適用における課題」

岡田清久氏（PM学会大会委員会

副委員長・日本電気㈱）

ITベンダ系企業20社から提供の2004年、2005年、2006年に更新・追加された1,774件のプロジェクト・データに基づくデータより、システム開発の状況について述べる。また、日本におけるITプロジェクトの成功率や米国との比較により、ITプロジェクトの成功率について検討す

る。モダンPMの経緯，日本におけるモダンPM普及の阻害要因などモダンPMについて述べる。PMBOKは役に立つか？などPMBOKの適用について再考する。



岡田氏による招待講演

講演：

「効果的な人材育成にむけたオフサイトミーティング」

欄所敏勝（㈱四電工）

人材流動が激化してきた昨今において建設業界もその例外ではなく，優秀な人材確保とその育成が重要な経営課題となっている。現状とあるべき姿とのギャップを分析しその課題解決に取り組むにあたり，育成システムの整備に加え，個々の意欲を向上させることが重要である。しかし，後者は制度整備だけでは解決できないことが多いと言われている。その解決のため当社で行った意識向上プロジェクトによるオフサイトマネジメントの事例を紹介する。



欄所氏による発表

「Project Management は何故必要なのか？ 一体何をしたいのだろうか？」

大和田昭邦（㈱ダイナックス高松）

管理という言葉に何か抵抗感を感じる，不満を感じる人も少ない。例えば芸術家はどうか。管理そのものは何かを生むのだろうか？

「中国におけるリーダーシップと組織文化の実証的研究—日中企業の比較分析を中心に—」

吳志卓（香川大学大学院地域マネジメント研究科）

板倉宏昭（香川大学大学院地域マネジメント研究科）

中国における日本企業が，魅力のあるリーダーシップや組織文化を構築するには，どうしたらよいかを探る。日本企業は中国において現地化が進まず，リーダーシップや組織文化において課題を抱えており，有能な人材の確保が困難であると言われている。中国，日本と欧米企業の従業員を対象に，アンケート調査とインタビューを通じて，日本発のPM理論や欧米を中心とした組織文化の理論が中国企業にも適用するかどうか検討した上で，リーダーシップと組織文化による組織のパフォーマンスへの影響を分析し，組織のパフォーマンスの向上に適合するリーダーシップスタイルと組織文化を究明し，日本企業の中国での有効な現地経営に提言する。

「中国オフショア開発委託におけるプロジェクト管理の実際」

三宅雅文（㈱富士通四国インフォテック）

同じ漢字文化であり，日本語が通じ，日本とのソフトウェア開発委託の実績が豊富な中国大連でのオフショア開発委託においてもプロジェクトマネジメントが大変難しいのが実情である。3年の経験から得られたノウハウを紹介する。

「タスクリーダー不足問題への取組」

小笹宝（中央コンピューター㈱）

情報システム開発プロジェクト発足時には，一般

的に最適な実施体制を編成する。その時に少なからずリーダー不足問題に直面することがある。この問題に対して自社での試みを踏まえながら、一つの解決策を提言する。



小笹氏による発表

「初心者でも使える見積技術の研究」

遠森伸一（株STNet）

ソフトウェアの見積は、ソフトウェアが目に見えないという事と多種多様な見積手段があるという事でとても難しい。しかし、初心者でも使える見積体系を準備しておく事で、見積の精度を向上させプロジェクトの成功確率を高める事が可能になる。



遠森氏による発表

「住宅の歴史に学ぶ ー近代から現代へー」

松島学（香川大学工学部）

住宅の歴史に学ぶことが多い最近感じている。たとえば、皆さんが和室がほしいというけれど、本当に和室で生活が成り立つのか？周りの環境が変わっ

ているにもかかわらず、過去の郷愁にしがみついてしまう。そんな事例を話しながら、人間はいかに思い込みで物事を決めているかを報告する。

年次研究大会終了後は会場を移して、懇親会が開かれ、ここでも活発な意見交換をすることができました。

2. 今年度の活動予定

今年度は、昨年度に引き続き、研究会の活発化に重点を置き活動を展開する計画です。年次大会に続き、昨年同様、年4回の研究会を実施する予定です。

また、ITC団体（ITC四国、ITCかがわ）やISOネットワーク、香川県情報システムサービス協議会、香川大学社会連携・知的財産センターなどの団体との交流を深め、幅広い方に研究会への参加を呼び掛け、新規会員の開拓に努めたいと考えています。

更に、PMの基礎的な手法の研修に加えて、四国地域の実践的な課題、例えば、街づくり、地域振興、企業の経営課題等にプロジェクトマネジメントを適用することで、活動を一層活性化していきたいと考えています。

四国支部お問い合わせ先

事務局：香川大学大学院地域マネジメント研究科
板倉研究室

〒760-8523 香川県高松市幸町 2-1

TEL&FAX 087-832-1872

電子メール：nakayama@italabo.com

ホームページ：

<http://www.italabo.com/PMshikoku/>

3. お礼

最後になりましたが、年次研究大会の運営に関し、会員サービス委員会の磯様（NTTデータ）をはじめ本部の方々には、多大なご支援をいただきました。厚くお礼申し上げます。

* 香川大学大学院地域マネジメント研究科